



Title	道の途中で：風土
Author(s)	大貫，惇睦
Citation	大阪大学低温センターだより．2016，164-165，p. 14-15
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/57829
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

道の途中で 一風土一

琉球大学理学部 大貫惇睦*

沖縄本島と先島(宮古、石垣)は琉球弧を描いて鹿児島県の奄美と台湾にまたがっている。これらの島々は、日本列島を流れる黒潮の出発点でもある。毎朝テレビで九州・沖縄の天気予報の地図を見ていると、台湾とフィリピンがとても身近に思えてくる。大阪大学に勤務していた頃、琉球の歴史に関する本を読んだ。その本に沖縄の地理を描いた簡単な絵がのっていた。なんと沖縄の真上に、つまり真北に朝鮮半島が位置しているのです。沖縄はもっと西によっていると思い込んでいたので、びっくりしたことがある。これから書くことは何かある思い違いというか、思い込みもあると思うので、そう思って読んでいただきたい。あるいは強い陽ざしのせいかも知れません。

何年か前に那覇の国際通りから平和通り商店街をぬけ、壺屋(つぼや)やちむん通りに入った。そこを出発点としてまずやちむん通りをまっすぐ歩いた。左側は丘というか少し高台で、右側は平地で、両側とも住宅街であった。光まぶしい9月の中旬の頃である。ほどなくして自動車が行きかう国道に出た。そこで来た道をもどり出発点に立ちました。これから坂道をのぼって、このあたりの高台の路地めぐりを楽しみ、さきほど行った国道付近のやちむん通りに降りてくるという腹づもりである。

歩いているとフクギにびっしりと小さな実がなっていることを見て、陽ざしは強くまぶしいが、やはり秋なのだろうかなどと感じ入っているうちにどこをどう歩いているのか全く分からなくなっていました。しかし、この方向に歩けばやがては国道には出るだろうと思いつつ歩みを続けました。そのうち陽ざしをさえぎる大きなマンションがありました。そのわきを歩いていたら、急に悪寒におそわれたのです。体が冷えてゾクゾクとするのです。どうしたのだろうと驚きつつ、その場を早く立ち去れという声がして、どんどん坂道を降りてゆき、間もなく国道に出ました。もう悪寒はなくなっていました。飲み物を手に入れ、本屋に入りました。のどをうるおし、本をながめていたら身も心もすっかり落ちついてきました。

さて、あのゾクゾクとする寒さは何だったのだろうか、探求せずにはいられなくなりました。降りたところはやちむん通りの近くだったので、やちむん通りを歩いてもとの出発点にもどりました。そして、再びあのマンションに向かって坂道をのぼって行ったのです。あてどなく歩いたので、行きつもどりつしながらやがてあのマンションに到着しました。しかし、ゾクゾクとするあの悪寒はなく、あたりはひんやりとしてとても気持ちが良いのです。このひんやりはどうしてなのだろうかと思いつつ、マンションの小さな横道に入り、マンションの裏側へと向かったのです。ああ何とそこはがけでした。ひんやりとした風が吹きわたり、大きな樹木の中にひっそりとお墓が並んでいた

*大阪大学名誉教授

のです。

この原稿を書いている5月中旬が過ぎると梅雨になり、やがて台風がやってきて台風23号あたりで10月上旬になります。とても大きな台風が私が住んでいる沖縄本島を横切るのは年に2〜3回ですが、そのときは生きた心地がしないほど強烈です。10月中旬から3月までがほど良い温度で、しかも昼と夜の温度差がほとんどなくとても過ごしやすい期間になります。湿度も95%から60%ぐらいに下がり、私の大好きな単結晶育成はとても楽になります。そんな思いを詩にし、結びとします。

台風にちぎられてはだかになった木々に
緑の小さな芽が今よみがえった
海から吹いてくる優しい風が
あなたの心をなでてゆきますように
まぶしい光をさえぎるフクギの木陰が
やすらぎを与えますように
食卓に並ぶ色鮮やかな野菜やくだものが
生きる力と勇気を与えますように



5月の梅雨にぬれて
咲く月桃の花